

W杯日本代表の勇姿に刺激…

ラグビーのワールドカップ（W杯）イングランド大会で過去最高の3勝を挙げた日本代表の活躍を受け、十勝でもこの競技への注目度が高まっている。少年ラグビースクールや社会人ラグビーチームには、年度途中にはこれまでほとんどなかった入会希望などの問い合わせが増加。商品の取り扱いが少なかったスポーツ店でも、アイテムの拡充を検討している。

ラグビー熱 十勝でも

スクールやチーム入会者増



タグラグビーの公開授業。教員が見守る中、子供たちがはつらつとしたプレーを見せた（16日、芽室町総合体育館）

幼児から小・中学生までが活動する帯広少年ラグビーに8件の問い合わせがあった

スポーツ店は商品拡充も

た。大半が「オールフォーワン、ワンフォーオール」の精神に感激。「大きい外国人に、捨て身のタックルをする選手に感動した」などと、W杯での日本代表の戦いぶりに刺激を受けたものだという。
同スクールの高城修治事務局長は「これまで年度途中の問い合わせは、ほとんどなかった。多くの人がラグビーに関心を持ってくれて、うれしい限り。W杯効果を感じる」と話す。
地元の社会人ラグビーチーム「十勝クラシックラグビー」にも入団希望者が2人。「昔やっていたが、W杯を見てまたやりたくなった」とラグーマン魂が再燃している。関係者は「こんなことは過去になかった」と

驚く。
16日の北海道学校体育研究大会十勝大会（会場・芽室町総合体育館）では、タグラグビーを題材に公開授業が行われた。2011年施行の小学校の新学習指導要領解説書（体育編）で初

桑井（幕出身）女子の顔、に 日本代表候補ポスターに登場



女子7人制ラグビーアジア予選 2015.11.28・29

めて例示された競技。ラグビー日本代表の活躍もあり、参加した教員の関心も高く、ルールや指導方法を熱心に学んでいた。
帯広市内のスポーツパーク（西19南2）では、店頭で例示された競技。ラグビー日本代表の活躍もあり、参加した教員の関心も高く、ルールや指導方法を熱心に学んでいた。
女子7人制ラグビーアジア予選のPRポスターに登場した桑井選手（左端）© JRFU, Shuhei Fujita
「さくらの七人制ラグビー」の私たちが。のフレーズとともに登場し、サクラセブンスの「顔」として紹介されている。
桑井選手は帯広高時代、陸上部に所属。田盤投げ種目で活躍し、2年生の国体では5位に入賞した。当時を知る同校の西山修一監督は「身体能力は高かったが、何より努力家で後輩の見本になるような子だった」と振り返り、「中京大でラグビーに出合ったのは運命的。けがに気を付け、ぜひ五輪出場を果たしてほしい」と期待する。
アジア予選は香港で第1戦（11月7、8日）、東京の秩父宮ラグビー場で第2戦（同28、29日）があり、ポイント総計で1位になれば五輪出場が決まる。
大会に向け、「すぐわくわくします！」とブログで思いを語った桑井選手。先にスリランカで行われたアジアシリーズでは、日本の主力として活躍し優勝した。W杯での男子に続き、女子の桜旋風をハードワークでけん引する。
（松村智裕）